

最近、死亡例までが報告された中国産“やせ薬”による被害者は、「中国の薬だから漢方だと思った」とか「漢方だから安全だ」というような誤解から常用した方たちに多かったようである。しかし、問題となった“やせ薬”は漢方薬ではなく、それどころか危険な副作用の恐れありとしてアメリカのFDAによって販売が禁止された「食欲抑制薬」フェンフルラミンが、しかもニトロソ化の覆面をつけて配合されていたというとんでもない代物であった。フェンフルラミンは心臓に対する副作用が指摘された医薬品であったが、被害者の多くが肝臓に重篤な障害を受けていたのはニトロソ化による影響があったのかもしれない。それに、たとえ漢方薬といえども正確な情報に基づく正しい使い方をされない限り、効果が期待できないばかりでなく副作用が出ることだってないとはいえない。

ところで、体质の改善、とくに肥満体质の改善を效能・効果として謳っている処方に防風通聖散がある。腹部に皮下脂肪が多く便秘がちな肥満の改善に効果があるといえば、いまどき恰好の話題になりそうな処方である。黄芩、甘草、桔梗、石膏、白朮、大黄、荊芥、山梔子、芍藥、川芎、当帰、薄荷、防風、麻黃、連翹、生姜、滑石、芒硝が配合されている。出典は「宣明論」とされるが、本来の効能は悪寒、発熱、頭痛、無汗、尿量減少、あるいは口渴、目の充血、耳や喉や皮膚の炎症、腹部膨満、便秘などの病邪が表裏ともに盛んになる「表裏俱実」の緩和にあるとされており、中国では金代から現代にいたるまで比較的急性の熱性疾患に使用されている。

この処方の薬能に肥満症を加えたのはわが国獨特の用法であるとされている。「表裏俱実」を体力の充実と解釈することによって、とくに脳卒中体质をもつ太鼓腹の肥満体、つまり代謝が盛んで熱の生産が高く、発汗による体表からの熱の発散が十分でなく、体温が上昇し、腸管の蠕動が妨げられているような、脈腹が充実した実証体质における肥満、便秘の改善、高血圧にともなう動悸、肩こり、のぼせなどの解消に適用されるようになったと伝えられる。したがって、いくら痩せたいと思っても、もともとそれほどには太っておらず、どちらかとい

えば、虚証に近い若い女性の痩せたい希望には残念ながら適合しない。

ところで、処方名の頭についている防風はセリ科の植物ボウフウの根を乾燥させた生薬である。『神農本草經』では上品に記載され、「大風、頭眩痛、惡風、風邪、目盲、風全身をめぐって骨節疼痛するを治す」とある。治風去湿の仙薬である。汗による体熱の放散・解毒による皮膚疾患の改善、血行をうながすことによる鎮痛、めまいの治療などの薬効が期待されている。

ボウフウはもともとわが国には自生せず、江戸期享保年間に中国から伝えられ、幕命によつて、いまも薬園を残している奈良・大宇陀の森野家(森野藤助)によって栽培されたという。幕末、勝海舟らが咸臨丸でアメリカに出発した万延元年(1860)のころ、平田眠翁の『因伯産物薬効録』には「宇陀より漢種の防風を伝え、公園に栽たれども寒国にては育ちがたしと見ゆ…」とある。また「浜防風あり、この根も乾して薬となすべし」という記述もある。森 納『因伯くすり雑考』(1984)は「米子の糀町二丁目にあった古谷菓子店は江戸時代の古い商店であるが、その防風糖は中風除けによいとあって米子の銘菓として他国にも出されていた。子孫の方の話によれば浜防風の葉と茎をゆがいて、砂糖漬けにしたもので…」と述べている。浜防風は、わが国でもほとんど全国の海岸に自生し、夏に小さな白い5弁の花を咲かせるセリ科植物ハマボウフウの根である。すでに江戸期から防風の代用として利用された。

浜防風

東京薬科大学客員教授／千葉大学 名誉教授 **山崎**



食用にもされ、八百屋防風とも呼ばれたという。

防 風、浜防風の成分、薬効については、数年前に私の研究室でも調べたことがある。ともにセリ科特有のクマリン、クロモン、ポリアセチレン類を含有することが確認された。防風のlebebouriellol、

hamaudol、divaricatol等のクロモン類、浜防風のポリアセチレン類はマウスに発症させた酢酸ライシング疼痛に対して明確な鎮痛作用を示した。

浜 防風の基原植物ハマボウフウはわが国各地の海岸に自生するが、産地、特に南北の違いによって含有成分が異なっていたという報告がある。しかし、その後、成分の含有量は採取後に行われる乾燥工程の条件の違い、生根のままでの保存期間等によって影響を受けるという結果も報告されているので、浜防風の調製にあたっては生根の保存、乾燥の条件を厳密に検討する必要があるだろう。漢方生薬の修治についてはすでにさまざまな問題の指摘があるが、実は、基原植物の採取、保存、乾燥等の調製工程の如何によっては、生薬の品質の良否をこえて薬効にも影響を及ぼす可能性があることを改めて認識したい。

米子の銘菓と痩せ薬

と防風

幹夫

Mikio Yamazaki